

平成30年度 流山市立東深井中学校の学校経営方針

校長 片野 全康

輝く子供たちの姿は教師の喜びであり、頑張る仲間の姿は子供たちの励みになる。学校経営目標を「活力に満ちた人間の育成～**魅力にあふれ、輝きを放つ人間**～」と置き、「生徒、教師が対話を深め互いに信頼し、共に伸びる笑顔と活気に満ちた東深井中学校」となれるよう、これまでの歩みの流れを止めずに、全職員で、更なる前進を図る。鍵となる言葉は「自立」「対話」「心」「協働」である。

○学校としての使命は

- ①「望ましい**生活習慣・生活力**をつけること」
- ②「**学力を向上**させること」



生徒に自立できる力を身につけさせる



○その実現のため基盤は、

「子供達を精神的に安定した環境に置くこと」つまり「**まじめさと隣の人を大切に**することのできる温かさ」のある集団をつくること。

＜目指す学校像として＞

活力に満ちた＜**魅力にあふれ、輝きを放つ**＞人間の育成

そのためには

- 1 安全、安心、案じあえる学校仲間がいる学校
- 2 まじめさと温かさを大切にできる学校
- 3 家庭・地域と連携し、協力し合える学校

○そのために教師は

1 真心で接することのできる教師

- ・ 生徒に対して熱い想いと愛情を持ち、寄り添い育てて行く姿勢を大切にできる教師であること。
- ・ 生徒一人ひとりを理解するために、一人ひとりを観ること、良さを認め励まし、育てて行くことを大切にできる教師であること。
- ・ 共に学び、共に働き、共に喜ぶことのできる教師
- ・ 生徒に願いを伝え、生徒の話を聴き、ともに汗を流し、共感できる教師であること。
- ・ 失敗を認めることのできる教師であること。

2 高い倫理性を持ち、心身共に健康で明朗な教師

- ・ 社会規範を身に付けモラルの向上に努める教師でること。
- ・ 「チーム東深井」として教職員が仲良く、腹を割って話し合い、お互いに連携し、バックアップし、カバーをしていくことで子供の成長は成し得ることを肝に銘じられる教師であること。
- ・ 保護者や地域社会に自ら積極的に働きかけ、信頼される教師であること。
- ・ 不祥事を絶対に起こさないよう声を掛け合える教師であること。

- 家庭・地域との連携として（**P T C（地域）Aによる強力なタッグ**）
 - 1 情報をまめに発信すると共に素早く共有し、家庭との連携を図る。
 - 2 地域に積極的に出向き、交流を深め、地域の一員としての自覚を育てると共に地域の教育力を学校現場に生かす。（学校支援地域本部の有効活用を図る）

経営の基本方針について

- 1 チーム東深井として、一人ひとりの生徒を大切にし、皆で育てる。
 - ・ ほうれんそう……すばやい情報の共有 対応策を練る。管理職まで一報を【悪い情報ほど早く】
 - ・ 職員室での会話（**作戦会議の場**）……生徒の会話をたくさん
生徒の悪口はNG
 - ・ 生徒の模範……挨拶 服装 ゴミの処理 言葉遣い
 - ・ 一人ひとりが全校を考える姿勢……「チーム東深井」として関わる。

- 2 家庭との連携・地域（コミュニティ）との連携 開かれた学校作り
 - ・ 情報を発信すると共に、地域の教育力を生かす。
 - ・ 保護者とパートナーとなる。パートナーとはお互いにお互いの立場を理解し、支援する関係をつくる。学校ができること 保護者が行うこと 両方で協力支援すること
 - ・ 日頃より連絡を密に取る必要がある。

経営の重点

< 1 学習指導の質の充実 >

(1) 授業創り（教師面：生徒面） ②家庭学習 ③家庭教育

「あの先生の授業はわかりやすい、楽しい」という生徒の評価が生徒指導にも反映される。生徒指導の機能を生かした教科指導。

具体的な取り組みは研修の提案

< ポイントは >

- ① 指導計画を生徒の視点に立ってつくられているか
- ② 1時間の授業のポイントを
 - ・ 課題をつかませる 山場での学び合い 終末の自己の振り返りの3つにおく。<この1時間で掴まえさせたいのは何？>
 - ・ 積極的な生徒指導の機能を生かした授業づくりでもあり、委員会活動との連携により学ぶ集団づくりも併行して進める。
 - ・ この1時間で、どれだけ脳が動いたか。（≒能動）「なぜ？」
- ③ 家庭での時間の使い方 家庭学習の仕方を指導し、定着をはかる
- ④ 検定資格の積極的な指導 5月～7月
- ⑤ 言語活動の充実 聴くこと 話すこと＝伝えること 考え合うこと

< 2 積極的な生徒指導と心の教育＝特別活動の充実 >

- ① 生徒指導は生徒理解
生徒の表情を見て 声をかける 話を聴いてあげる。
- ② まじめさと温かさを大切にできる集団づくり 仲間作り
いかに良さを認め合えるか。学級のモラルを4月中に確立する。
「ならぬものならぬ」叱り上手の先生に
「いじめは絶対にゆるさない」

< 学級開き 1週間で定着させること 4月中に定着させること >

- ③ お互いに誠意を持って目を見て話をする
日々の朝の会・帰りの会・班会議を大切にする。願いを語る
聴いて理解する
 - ④ 行事を通して、感動体験をつくる。行事の工夫
生徒が「やってよかった。」「やらせてほめる。」自己肯定感
の醸成
 - ⑤ 部活動を通じた生徒指導 部長会を通じて共通の指導をする
 - ⑥ 道徳の授業の推進
- ※一人ひとりの生徒を全職員で育てるが基本理念＝情報の共有＝
生徒指導担当の動き

< 3 生徒の姿が評価の対象 >

プロとしての厳しさを持つ。課題はどこか、検証し、次への手立てを。
先を見て何が起こるか予測して対応できる力を せめて2ヶ月先を
見据えて

< 4 若手の人材育成 >

学校組織をあげた人材育成を図る。

若手の先生 謙虚に学ぶ姿勢を 自らやろうとする姿勢を示す
学校組織の一員としての自分の役割
先を見る 広く見る
社会人として 教育公務員としての自覚

ベテランの先生 若手に任せればよいはNG
後ろ姿で示す時、言葉で指導する時、授業を見せる
(若手との対話…過去の経験を伝え、教員文化の伝承)
東深井中の歴史を語り継ぐ